

専攻科福祉専攻(介護福祉士養成課程)への思い

私は専攻科福祉専攻の1回生の村上実奈です。専攻科を卒業と同時に現在の施設に介護職員として就職し、その後現在の教育・研修事業所に異動しました。仕事内容は、新人職員の研修、法人内職員の研修(法人すべての部署対象)、介護福祉士養成実習の受け入れ等です。専攻科には卒業生として、授業の一環で現場の話をさせていただいたり、時には非常勤講師として学生さんとかかわる時間をいただけてきました。

私にとって専攻科は介護の原点を教えてくれた場所です。1年という短い時間の中で、介護現場の現実に触れ「尊厳」について深く考え、施設で過ごしているご利用者の切ない思いに触れ、20代~40代という幅広い年齢層の同級生と共に学び、多くの先生方の熱い思いのこもった授業を受け、専攻科で過ごした時間は今でも楽しくもあり、切なくもあり、輝いている時間です。

専攻科の学生さんの大きな特徴は、幼児教育・保育を学び、厳しい実習を体験した経験があることから、ご利用者へのまっすぐな愛情と、優しい笑顔と、ご利用者の尊厳を大切に思う姿勢が身についていることだと思います。実習受け入れ担当者として、また、専攻科の卒業生として、「尊厳」を常に大切に考えられる人になってもらいたくて学校でも、現場でも学生さんに「ご利用者の声」を届けてきました。専攻科で学んだ学生さんたちは、福祉に対する倫理観をもってくださっていると信じています。卒業して、それぞれの社会に出ていき、なかなか顔を合わすことができないですが、卒業生がそれぞれの現場で元気に頑張っているだろうと思い、自分自身も頑張っています。私の原点である専攻科福祉専攻がなくなってしまうことは、仕事で辛いとき、苦しい時、相談出来る場所がなくなってしまうことのように思え、とても寂しく感じました。しかし、前を向いて歩いていくために、みんなが集える新しい場所を作り、交流を続けていけたらと考えています。専攻科福祉専攻の卒業生の皆さん、最後の卒業生となる学生の皆さん、また、お会いできる日を楽しみにしています。その日までお元気で……。

2021年12月

1回生 村上実奈